

○保育士A専門試験問題例

問1 保育所保育指針第3章健康及び安全に関する次のA～Eの記述について、( 1 )～( 10 )にあてはまる語句を下記の語句群から選び、記号で答えなさい。なお、( )に同じ数字が記載されている場合は、同じ語句があてはまる。

- A 施設の温度、湿度、( 1 )、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具等の( 2 )に努めること。
- B 施設内外の適切な環境の( 3 )に努めるとともに、子ども及び全職員が清潔を保つようにすること。また、職員は( 4 )の向上に努めること。
- C 保育中の事故防止のために、子どもの( 5 )等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員の( 6 )や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行うこと。
- D 事故防止の取組を行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、( 7 )等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの( 8 )を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な( 9 )を講じること。
- E 保育中の事故の発生に備え、施設内外の危険箇所の点検や( 10 )を実施するとともに、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や( 10 )など不測の事態に備えて必要な対応を行うこと。

【語句群】

ア. 共通理解	イ. 沐浴中	ウ. 衛生管理	エ. 対策
オ. 換気	カ. 衛生知識	キ. 訓練	ク. 情報共有
ケ. 意欲的な活動	コ. 維持	サ. 食事中	シ. 主体的な活動
ス. 衛生保持	セ. 整備	ソ. 心身の状態	

問2 次の記述は、保育現場における保育者の相談援助の方法や技術の概要である。それぞれの方法や技術の名称を下記の語句群から選び、数字で答えなさい。

- A 効率的な社会資源の活用による問題解決を図るために、だれが、だれに、何を、いつからいつまで行うのか、支援の成果をふまえた支援の計画を立案すること。
- B 関係機関、専門職でチームを形成し目標に向かって、チームの強みを意識し、意図的に活用して支援すること。
- C 支援の必要な状況であるにもかかわらず、それを認識していない、あるいは支援につながっていない子どもや保護者に対して、保育者から援助につなげるためのはたらきかけを行うこと。
- D 権利擁護や意思尊重を目的に、個人（子どもや保護者）・グループ・地域から聞き取った心情や要望をそのまま伝達、保育者が現状から推察した心情や要望を他者に代弁すること。
- E 支援に関する情報を共有し、組織的な支援計画を作成するための会議への参画および会議を運営すること。

【語句群】

- |               |             |                |
|---------------|-------------|----------------|
| 1. アドボカシー     | 2. ネットワーキング | 3. ソーシャルプランニング |
| 4. オーガナイゼーション | 5. ケアマネジメント | 6. アウトリーチ      |
| 7. チームアプローチ   | 8. アセスメント   | 9. ケアカンファレンス   |

問3 子どもの発達に関するさまざまな理論に関する次のA～Eの記述について、正しいものには「○」を、間違っているものには「×」をつけなさい。

- A ピアジェは、子どもの発達を「認知を獲得する過程」とみなし、「感覚運動期／前操作期／具体的操作期／形式的操作期」の4段階を導き出した。
- B ボウルビィは、発達を「愛着行動」という観点から考え、見知らぬ人をじっと見たり、抱かれると泣きだしたりする「人見知り」は生後3か月ごろから見られるとした。
- C ブロンフェンブレンナーは、人間の特性をその生活様式や行動、環境との相互作用から明らかにしようと、生物学的モデルを提唱した。
- D エリクソンは、アイデンティティ概念を最初に提唱し、青年期の心理的・社会的課題として、「自我同一性（アイデンティティ）の確立」を重視した。
- E ヴィゴツキーは、発達は社会、文化的要因に依存したものであるとし、文化的環境要因としての教育の重要性を強調した。

問4 保育所保育指針第5章職員の資質向上に関する次の記述について、(A)～(E)にあてはまる語句を下記の語句群から選び、番号で答えなさい。

- ・ 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の( A )、人間性並びに保育所職員としての( B )及び責任の理解と自覚が基盤となる。
- ・ 各職員は、( C )に基づく課題等を踏まえ、保育所内外の研修等を通じて、保育士・看護師・調理員・栄養士等、それぞれの職務内容に応じた( D )を高めるため、必要な知識及び技術の修得、( E )に努めなければならない。

A	1. 倫理観	2. 道徳性	3. 規範意識
B	1. 任務	2. 責務	3. 職務
C	1. 自己意識	2. 自己評価	3. 反省
D	1. 資質	2. 専門性	3. 能力
E	1. 研修受講	2. スキルアップ	3. 維持及び向上

問5 次の表は、「授乳・離乳の支援ガイド」(2019年厚生労働省)における離乳の進め方の目安である。  
 (A)～(E)にあてはまる語句を記入しなさい。

離乳の開始 

 離乳の完了

以下に示す事項は、あくまでも目安であり、子どもの食欲や成長・発達の状況に応じて調整する				
月 齢	離乳初期 生後 ( A ) 頃	離乳中期 生後 ( B ) 頃	離乳後期 生後 9～11 か月頃	離乳完了期 生後 12～18 か月頃
食 べ 方 の 目 安	子どもの様子を見ながら1日1回1さじずつから始める。  母乳やミルクは飲みたいだけ与える。	1日2回食で、食事のリズムを付けていく。  いろいろな味や舌ざわりを楽しめるように食品の種類を増やしていく。	食事のリズムを大切に、1日3回食に進めていく。  ( D ) を通じて食の楽しい体験を積み重ねる。	1日3回食のリズムを大切に、生活リズムを整える。  ( E ) 食べにより、自分で食べる楽しさを増やす。
調 理 形 態	なめらかにすりつぶした状態	( C ) でつぶせる固さ	歯ぐきでつぶせる固さ	歯ぐきで噛める固さ

問6 昨今、社会的問題となっている「ヤングケアラー」について説明し、「ヤングケアラー」が直面する問題を述べなさい。

問7 ある日、3歳児クラスのA君とB君がブロックで遊んでいた。A君はブロックで車を作っていた。B君はタイヤが欲しくて、A君の車のタイヤを取って壊してしまった。A君は怒ってB君につきまかき、タイヤを取り返そうとした際、けんかになり、B君の顔をひっかいてしまった。この時、担任であるあなたは子どもや保護者にどのように対応するか述べなさい。

問8 保育所において障がいのある子どもを支援するときのポイントについて、あなたの考えを述べなさい。(800字程度)